

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



▲馬防柵に登って何が見えた。

設楽原の決戦場
無敵を誇っていた武田軍
の騎馬隊に対する織田
・徳川連合軍は「絶銃」と
いう新たな武器を
「馬防柵」と「鉄砲隊」と
いう戦術で組織的に利
用し圧倒的な強さで決
戦を征した。

自然を活かす
文化のヒント
十一月一日が「古典の日」
日本のこれからを
古典に学ぶ

馬防柵が決戦場跡地に再現されて



2017/09/23



2017/09/23

▲東栄町体験交流館のき山学校正面。満足顔。

不忠義なこと、大人としてほめるべきところ、いかに振舞うべきか、強い関心を示す。七五三、お宮参りに喜ぶとして洗濯ばさみや結の歌をあげ、おみ箱をひくより返している。
より広い視野を求め、か、いさでも箱でも出窓でも登りたがる新しい世界にひかれ突進する。
二十一世紀は社会の側から科学に注文をつけていく時代などともいわれているが好奇心の役割が減るわけではな。最近の学力低下ではなく子どもたちの知的好奇心がやがや衰退気味と指摘している。みんな去っていく。声が増えてくる。家庭や学校生活の中でのことにいそいそとたう。子どもも教育が、子どもも好奇心をそそぐことは避けては行かない。行政もこれからは協働の時代には児童館に仕事もいやす事はあめてこれとは一体どちらを向いて仕事をするか。少子高齢化の波が押しよせて果敢と、黙ることも偉大はなくなり、今地蔵の人達としっかりと手を結んでいこうと、みんな去っていく。



2017/09/23



2017/09/23

▲満足が続く。モチモチを刈り入れ。